

東京都パラスポーツトレーニングセンター（仮称）

「施設運営計画（中間まとめ）」

オリンピック・パラリンピック準備局

令和3年9月

- 2021年夏、東京は世界で初めて、同一都市で2度目となる夏季パラリンピックを開催しました。東京2020大会の開催都市として、東京都はパラスポーツがポピュラーなコンテンツとして広く社会に根付くよう、「パラスポーツ・シティ」プロジェクトとして、「する・みる・支える」それぞれの視点からパラスポーツの振興に取り組んでいます。
- このたび、東京都は、パラアスリートが継続的に練習可能な拠点として、味の素スタジアム内の室内施設を、「東京都パラスポーツトレーニングセンター」（仮称）として整備することとしました。
- この「施設運営計画（中間まとめ）」は、東京都パラスポーツトレーニングセンター（仮称）を運営する際の指針となるものであり、パラスポーツの競技団体等の意見を伺いながら、検討を進めてまいります。

1 施設の現況

1 所在地

東京都調布市西町376番地3
(味の素スタジアム内)

2 施設概要

竣工 : 平成12年
延床面積 : 約6,195㎡
主要施設 : 体育室、集会室 等
アクセス : 京王線飛田給駅 (徒歩約15分)

3 バリアフリー状況

- ① 点字ブロック、スロープ
- ② 点字・音声案内
- ③ 車いす対応トイレ
- ④ 異性介添えの可能な家族更衣室 など

4 施設の状況

- 平成30年4月から令和元年5月まで、東京都多摩障害者スポーツセンターの改修中の代替施設として活用
その際、バリアフリー対応のための改修工事を実施

➡ バリアフリー設備が整備された、障害のある人も利用しやすい施設



1 都におけるパラスポーツの現状

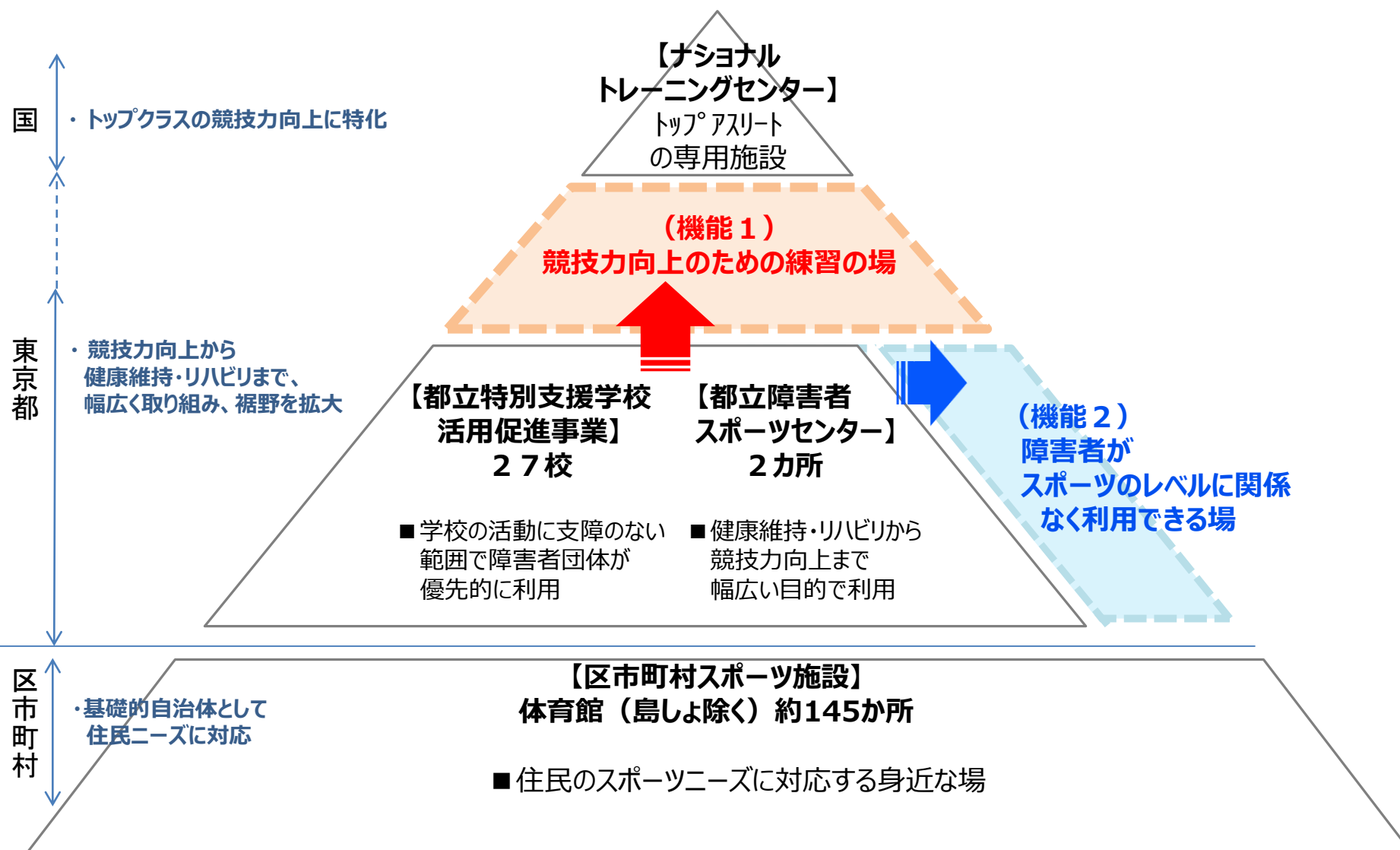
- 東京都は、都内2か所の障害者スポーツセンターを運営しているほか、都立特別支援学校の体育施設活用や区市町村体育施設のバリアフリー整備の促進などにより、パラスポーツの場の確保を進めてきた
- 東京2020大会に向けて都が実施してきたパラスポーツの競技力向上の取組等により、パラスポーツの競技団体の活動は従前と比べて大きく進展している
- 一方、パラスポーツで活用可能な練習場所の選択肢が少ない状況があり、次世代選手の強化育成等に安定的に利用できる場のニーズが増加している

2 都のパラスポーツ振興の方向性

- 「未来の東京」戦略ビジョン（令和元年12月策定）
 - ・ 「パラスポーツ・シティ」プロジェクト
「2度目のパラリンピックを開催した都市として、多くの人々がパラスポーツに関われる仕組みを構築し、パラスポーツをポピュラーなコンテンツに育て上げるとともに、障害の有無を問わず、誰もが楽しめるユニバーサルなスポーツとしての普及を図る」
- ➡ 「パラスポーツ・シティ」プロジェクトの推進に向けて、パラアスリートやパラスポーツの競技団体等が継続的に活動できる場を確保していく必要がある
- 「未来の東京」戦略（令和3年3月策定）
 - ・ 「東京スタジアム内の室内施設をパラスポーツ練習拠点としての活用を検討」
「パラリンピックのレガシーとして、パラアスリートが継続的に練習できる場の創出を検討」

3 施設に求められる機能

本施設をパラリンピックのレガシーとして整備するための検討に当たり、施設に求められる機能を都におけるパラスポーツの現状を踏まえて以下のとおり整理した



競技団体やチーム、アスリートによる継続的な練習利用や指導者養成など、パラスポーツの競技力向上拠点としていく。加えて、パラスポーツ教室の開催など、都民が様々なパラスポーツを楽しめる場を提供するなど、障害の有無に関わらず誰でも利用可能な施設としていく。

（１）パラスポーツの競技団体等が安定的に活動できる競技力向上の拠点

- 東京から世界を目指すパラアスリートの競技力向上のため、パラスポーツの競技団体等が継続的・計画的に利用できる練習拠点として活用する
- パラリンピック競技以外を含め、多様な障害種別のアスリートがスポーツに取り組める場とする
- パラスポーツ特有の用具等を備えた付加価値の高い施設とする

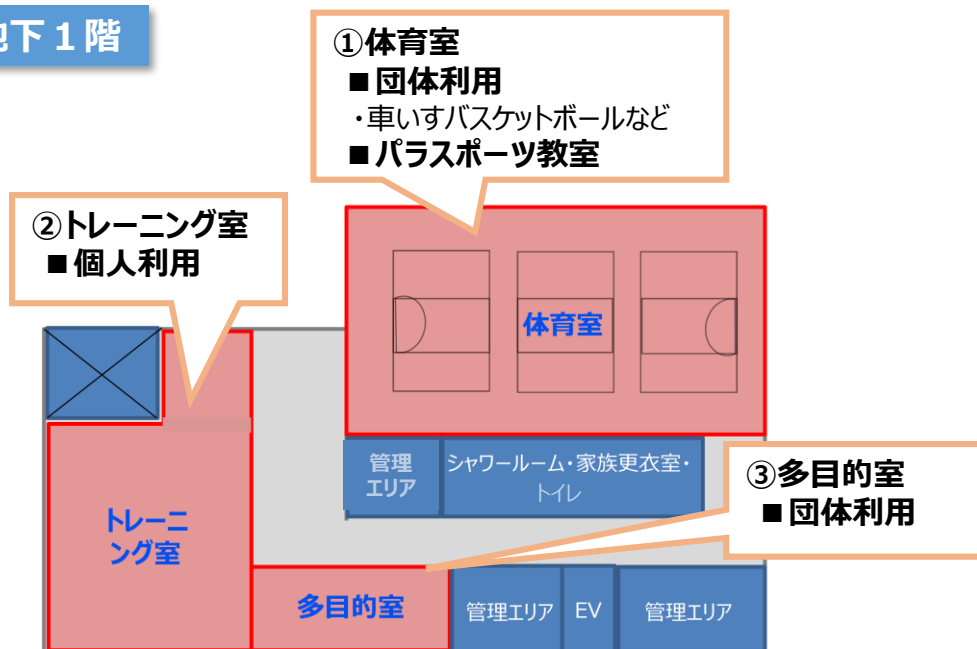
（２）障害のある人もない人もスポーツに親しむことのできる場

- 障害のある人がスポーツのレベルに関係なく利用できる場とする
- 障害のある人とない人が、一緒にスポーツに取り組める場とする
- 誰でも参加可能なパラスポーツ教室を開催するなど、都民がパラスポーツを楽しめる場とする
- 施設の空き状況に応じて、健常者がスポーツに取り組める場としても活用していく

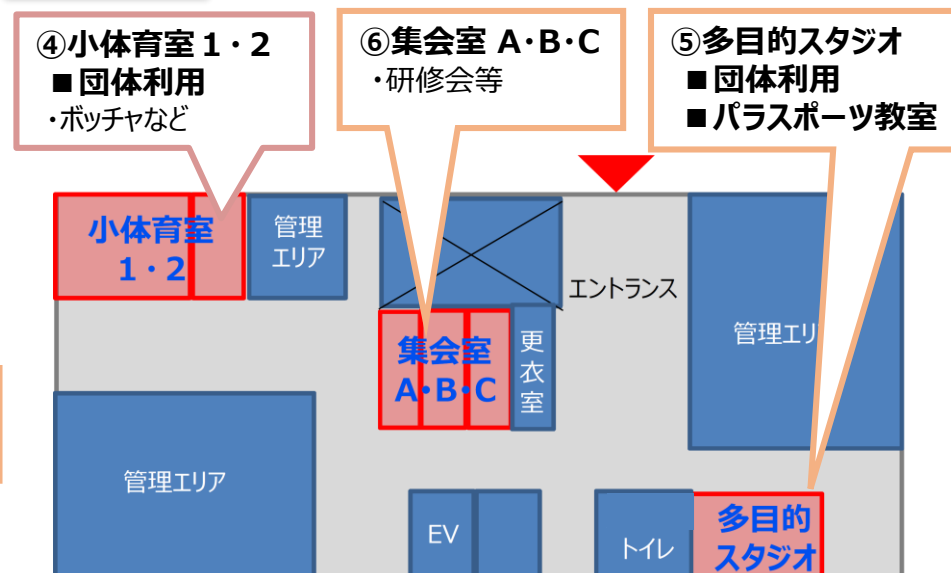
5 施設の利用イメージ

諸室名称	面積	主な利用方法	主な対応競技(想定)
① 体育室	7 4 4 m ²	競技団体等による練習利用・パラスポーツ教室	屋内団体競技 など
② トレーニング室	5 2 0 m ²	アスリート等によるトレーニング利用	筋力トレーニング など
③ 多目的室	1 8 6 m ²	競技団体等による練習利用	屋内競技（個人～少人数） など
④ 小体育室 1・2	8 2 m ² 、1 2 3 m ²		
⑤ 多目的スタジオ	1 2 7 m ²	パラスポーツ教室	ウォームアップ・軽運動 など
⑥ 集会室 A・B・C	8 6 m ² × 3 室	競技団体等による研修会や講習等	—

地下 1 階



地上 1 階



○ 利用者の需要予測

競技団体の専用利用、アスリート等の一般利用により、**年間約3万人の延べ利用者数**を想定

利用目的	場 所	利用者数（想定） （延べ人数）
競技団体等による専用利用	① 体育室 ③ 多目的室 ④ 小体育室 1・2 ⑥ 集会室 A・B・C	約19,000人
アスリート等による一般利用	② トレーニング室	約7,000人
パラスポーツ教室等の開催	① 体育室 ⑤ 多目的スタジオ	約4,000人
合 計		約30,000人

○ 管理運営の検討

指定管理者制度による管理運営について具体的な検討を進めていきます

年間運営費（概算費用）の試算： 約2.2億円

※ 今後の指定管理者選定の中で提案を募るなど、効率的な施設運営策を検討

※ パラアスリート等に係る利用料については、東京2020大会後のパラスポーツ振興の視点や、類似施設でのパラスポーツの実施状況等を踏まえて、当面徴収しない

7 今後のスケジュール（予定）

令和3年9月	○ 施設運営計画（中間まとめ）の公表
令和3年9～10月	○ パブリックコメントの実施
令和3年11月～	○ 実施設計
令和4年2月頃	○ 施設運営計画の公表
令和4年度	○ 改修工事
令和4年度末	○ 開業（予定）